

再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担 当 課：都市計画課

担当課長名：野村二三夫

事業名：東部伊勢崎線外2線	事業区分：街路	事業主体：群馬県
起終点：太田市東長岡町～太田市西本町地内		延長：6.4 km
事業概要 太田駅は、東武鉄道伊勢崎線・桐生線・小泉線の結節点として、東毛地域における鉄道輸送の要衝であるが、駅周辺の市街地を鉄道がたすきがけ状に通過しているため、鉄道により市街地が分断されていることや、近年の自動車交通の増大による踏切部での交通渋滞や踏切事故の発生などにより、健全な都市の発展が阻害されている。 この問題を抜本的に解決するために、駅周辺の区画整理事業と協調しながら市街地を通過している鉄道の一定区間を連続して高架化することにより、駅周辺の健全な市街地形成を図るものである。		
H3年度事業化	H5年度都市計画決定 (H年度変更)	H8年度用地着手
		H8年度工事着手
全体事業費	300.9億円	事業進捗率：89%
計画交通量	台/日	供用済延長：6.4 km
費用対効果分析結果	B/C：2.1	総費用：(残事業)/(事業全体) 32/297億円 (事業費：297/297億円) 維持管理費： / 億円 総便益：(残事業)/(事業全体) /611億円 (走行時間短縮便益：368/611億円) (走行費用減少便益：243/611億円) (交通事故減少便益： / 億円)
感度分析の結果	実施していない	
事業の効果等	・平成16年11月の高架切替完了により17箇所の踏切が除却され、踏切渋滞と踏切事故の危険性が解消され一定の効果が上がった。 踏切渋滞長 最大250m → 0m (ピーク時) 市街地通過時間 東西方向 → 約9分の短縮 南北方向 → 約3分の短縮 ・駅の利便性が向上した。(エスカレーター、エレベーターの整備によるバリアフリー化) ・駅周辺市街地の一体的な土地利用が可能となった。 ・土地区画整理事業により街路が整備されることで、駅周辺の交通流動が円滑になる。	
関係する地方公共団体等の意見	踏切による渋滞解消や市街地の分断が解消され、今後のまちづくりに大きく寄与するものと考えている。また、電車の走行音の減少や踏切の警報機音が無くなり都市環境の向上が図れた。	
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	高架切替完了と区画整理の部分換地により新たな交差道路ができ、徐々にではあるが市街地の基盤整備が促進された。また、太田市による再開発住宅や行政センターを併設した市営住宅が建設された。	
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成11年11月に小泉線が、平成16年11月に残りの桐生線及び伊勢崎線の高架化が完了した。駅舎の整備・ホーム増設が残事業として残されており平成18年度の完成を目指しているところである。	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	本事業は、事業区域が区画整理区域の内外にわたっており、太田駅周辺区画整理事業区域内においては、区画整理により生み出される鉄道用地に高架橋を築造することとなる。近年の土地評価額の下落により換地設計等の理解を得るために相当の期間を要し、土地区画整理事業に遅れが生じている。 これにより鉄道高架用地の確保が遅れたため、平成12年度の事業再評価時点では平成15年度事業完了を予定していたが、さらに事業認可期間を3カ年延伸することとした。 現時点では、連続立体交差事業用地の確保ができ、平成18年度の事業完成に向け、着実に工事が進捗している。 事業の長期化を招いた土地区画整理事業による鉄道高架用地確保が完了し、暫定的ではあるものの事業区域全線にわたり鉄道高架化を達成しており、今後は駅部の完成形に向けた高架橋築造工事を推進するとともに、踏切除却部における交差道路整備を実施し、平成18年度の事業完了を目指す。	

施設の構造や工法の変更等

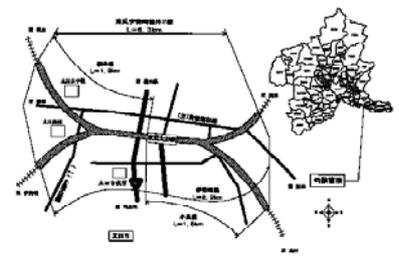
無し

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

太田駅付近連続立体交差事業による整備は、踏切による交通渋滞や事故の危険性を解消するだけでなく、駅施設の整備によるバリアフリー化の達成や駅周辺部の都市機能の改善を促進するために極めて重要な事業であり、まちづくりの契機として地元の期待も大きいため、早期完成に向け事業を継続する。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。